
竜也の冒険(仮)

コザック加藤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

竜也の冒険（仮）

【Nコード】

N9941A

【作者名】

コザック加藤

【あらすじ】

竜也の成長を書いた異世界ファンタジー。

第一話：みじめ（仮）（前書き）

半人前が書いたものです。

第一話：みじめ（仮）

・ここはいいどこなんだ。

僕の名前は草薙竜也。高校二年生になったばかり、正確に言えばまだ二年じゃなくて春休み中だ。

家にいても暇なんで本屋にでも行こうと思い、小さな公園にさしかかったとき、そんなとき、同じ年ぐらいの女の子がいかにも不良です。って人達にからまれていた。

僕はケンカとかしたことないけど、とりあえずその子を手助けに行った。結果的に胸倉掴まれてそのまま腹に一発。でダウン。うずくまっているそのときにうちの学校で1番カッコイイといわれてる斉藤君がでてきて、不良くんそれぞれ一発ずつくらわした。とりあえず助かった。女の子は斉藤くんを追って走って行っちゃった…。

一つ溜息をついて殴られた腹をさすった。

まだズキズキと痛みが…、しばらく立ち尽くしていると突然、妙な風が吹いた。かと思うと、電気みたいなバチツと急に目の前が光って目を覆いながら目をつぶった。目を開けるとさっきいた公園とはまったく違う場所にいた。・

第一話：みじめ（仮）（後書き）

1話終わりました。なんかこう書きたいことと思ってることが一致しないんで、どんどん修正していききたいです。これから先期待して読んでくれれば、これ幸いです。

第二話：遭遇（仮）

まわりを見渡してみると、さっきの場所とは全然違う、木に囲まれた森のすぐ近くの一面野原のところに立っていた。

『ここはいつたい……たしか公園にいたのに』

そのとき森のほうから
ガサガサツと音がした。

思わずドキツとしてその音の方を見るとそこから一人の男がでてきた。

お世辞にも綺麗とは言えない格好で、マントをはおり、頭にはバンダナを腰にはサーベルのような剣を携えていた。その男は見た目俺と同じぐらいの年齢で、青い目をしていた。

男は僕のほうをじっーとみて何か話しかけてきた。

が、なにを言っているのか言葉がさっぱりわからない。
とりあえず胸に手を当ててみて名前を言ってみた

『竜也です…』

『リュ、ヤ？』

あの後しばらく話すのを試みてはみたものの全然ダメだった。

しばらくしてその男は何かひらめいた様子のあと僕の服をぐいぐいと引っ張ってきた。そしてちよつと先にいって手招きされた。悪い人じゃなさそうだし着いていった。

しばらくついて歩いて行くと、小さな村が見えてきた。男は指差してそのままその方向に歩いていく。

『あの村みたいなところに行くのかなあ』

とりあえずついていった。

村の入口をぬけるとやレンガで作られた家や木で作られている家、馬車などもあり何ともレトロな感じの村だった。

『ほんとに日本じゃないとこなんだなあ』

とあらためて実感した。村の中では周りの視線がすごかった。

第二話：遭遇（仮）（後書き）

第二話おわりました。これからもこんな駄文ですが書いていきたい
と思います。もし読んでもらえたらこれ幸いです

第三話：村

やはり視線が痛いのは僕がジーパンにＴシャツだからだろう。村の中についていくと、男は僕に『ここにいろ』という感じで指差した。

しばらくたって手に袋をもった男が戻ってきた。また着いてこいと手招きした。どうやら宿をとったみたいで、その建物の中に入っていた。

部屋につくと男は袋から人参の干物みたいのやら葉っぱや唐辛子のようなのを取り出してそれを調合しだした。出来上がった粉薬を僕の目の前に置いた。いかにも怪しい薬で、緑というか青に近いいろで、僕はなかなか飲めないでいた。だけどあの青い目に真剣に見られちゃあ飲まないといけないようだ。

思い切って飲んでみると、『にがっ』

っと思わず声にでるほどの苦さだ。

『これを飲むといいよ』

お茶のような飲み物をすすめてくれた。『ありがとう』と男に言うていつきに飲み干した。

…

…

……あれ？なんで言葉がわかるの？
さっきまで全然わからなかったのに。

『その薬のおかげだよ、今きみに飲ました薬は言葉が話せるような

なる薬だよ。紹介が遅れたね、僕はロック・マルチネス。ロキって呼んでね』

そういつてロキはバンダナをとった。青い目と同じくらい綺麗な短髪の青い髪だ。

村の中でも青い髪の人はいなかった。黒髪や、茶色の髪の人ばかりだった。

そんなことを考えていると、ロキは今度は僕に紹介をもとめてきた。『草薙竜也です…、…竜也ってよんでください』

『オツケー、リユーヤね。さっそく質問なんだけど、リユーヤはどっからきたの？』

第三話：村（後書き）

暇潰しによんでくれたらうれしいです。設定もちゃんとしてなくて書いてますが、いきあたりばったりの性格なんで、大丈夫でしょう（汗）

第四話：ロキ（仮）

ロキにこの世界についていろいろ教えてもらった。

まずこの場所は六つの大陸のうち、東に位置するイースタン大陸。この時点でやっぱり異世界、もう驚きはしなかった。ちなみにこの村はジャズ村。

ロキは真ん中の大陸のセントルクス大陸出身で、俺と同じ年齢なのに、三年ぐらい一人で旅してるらしい。

俺は違う世界からきたこと、気がついたらこの世界にいたことをロキに説明した。ロキはすんなり違う世界からきたことを認めてくれた。昔の本に前例があるらしい。といっても、もう200年も昔らしいけど。

その人は僕と同じく急に、みょうな格好であらわれて言葉もしゃべれず、先程とおなじように薬で喋れるようにしてもらった。お礼に作物の作り方や、剣の鍛えかたを伝えたという。そしてそのあとは…

…本が破けていてわからなかったらしい。

………

『で、でも大きな図書館に行けばきつとあるよ』と、慌てたようにロキがつけたした。

（手掛かりは大きな図書館かあ…、元の世界に帰れるのかなあ…）

ぼっーとそんなことを考えているとロキが好奇心な目をこちらに向けていた。

『え、えと、期待してもらったら困るんだけど、僕はどこにでもいる普通の学生だから、その本にのってる作物とかは教えたりすることはできないからね』

（あからさまにがつくりしてる）

それでもロキは諦めてないのか『学生』について聞いてきた。

学生について話しているとロキは

『魔物とかいないのか？』

『……魔物いるの？』

第四話：ロキ（仮）（後書き）

第四話ここまでもしよんでくれたら評価：なんでもないです

第五話：ゼオン（仮）

『魔物いるの？』

『いるよ。』

『……………』

『……………大丈夫。竜也はちゃんと守ってあげるからさ。一応腕には覚えあるから』

——それからお腹がすいていたのと近くの店で食事することに。その前に服を買うことに。あからさまにみられていることに改めてきづかされる。

ロキと同じような格好になったが自分なりに（特にマントが）気に入った。

『おいしいっ』

運ばれてきたスパゲッティに似たパスタ料理を食べてそう一言。お腹がすいていたせいなのか、すごくおいしく感じる。きつと料理がうまいのだろう。あとはハーブティー、これも初めて飲んだけどすごくおいしい。お金なのだが、ロキに全部払ってもらった、一応多少はある（日本のお金）、だがここではやはり単位も違って、ゼオンらしい。ちなみにスパゲッティ＋ハーブティーで700ゼオンお腹も満たし、元の世界に戻るための手掛かりをさがすのだが、ロキに聞いたところこの村から南に位置するところに中央都市には劣るもの少しかい都市があるらしい。そこは一応都市というだけあ

って、図書館があつてそこにある。という話だ。
つまり今から南の都市に向かうわけだが、念のために僕も武器をもつことに。

武器屋に入ると、たくさんの武器がならんでいた。槍、弓、剣、大剣、その中になんと刀もあった。

刀を手にとつてみるとロキが『それがさっき言つた前にこの世界に
来た人が伝えた剣だよ』
と教えてくれた。

でもかなりの額だ。五十万ゼオンはありえないだろう。

そんなとき、店員らしき人がでてきた。でかい熊のような豪快な人だ。竜也はビックリして、尻餅をついた。そのときにポケットから五百円玉が転がった。店員がその五百円玉をひろつて

『ぜ、ぜひゆずつてくれ！！！！』ま、漫画のような展開だ。

店員はみごとな細工を気に入ったのか、ずっと眺めている。

『なら…これをゆずつてくれたら特別に、ガイアを作つてやるよ』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9941a/>

竜也の冒険(仮)

2010年12月14日18時35分発行